



---

・視察内容

いなべ市について、2003年に員弁群北勢町・員弁町・大安町・藤原町の4町が合併、人口43,000余、三重県最北端に位置する。主な産業は自動車製造関連。議員定数は18名。2010年～2015年にかけて議会改革をスタートされた。議会基本条例制定に向け作業部会を34回重ねるなど合併後の議会、議員間で討議、協議などご苦労された。その後▶議会検証評価特別委員会→議会の強み、弱みを見える化した市議会行動計画▶市民と議会の意見交換会を通して議案に対する市民意見の反映▶市の総合計画との関係性、計画と事務執行が合致しているか検証→事業評価→執行機関も市民の声を反映した政策等に真摯に対応する流れができているということであった。

当委員からテーマの抽出方法について質疑があった。それに対して各会派から出たものを分科会にかける、要素として意見交換会、議会報告会で上がった市民の声であるとのこと。またその意見交換会は多くの市民を集めるというよりその中身を重視するということがあった。企画に当たっては若い議員が担当し、対象も若い方を中心に開催していく方向であるとのこと。

事業評価からの政策サイクル＝評価事業の決定→調査→決算審議→新年度予算・提言へ反映→予算審議→予算執行を監視

特徴1「事務事業」単位で評価せず総合計画の「施策」単位で評価

特徴2 議員個々の意見→分科会のまとめ・意思決定→議会の意思決定までの合意形成を丁寧に実施。

特徴3 議会で意思決定された事業評価は、執行機関も真摯に対応

広聴広報委員会の役割→議案に対する市民意見の聴取、市議会だよりの編集  
議会報告会及び市民との意見交換会に関すること等々、重要な役割を担っている。更に議案審議の環境の充実として、勉強会、積極的な討論、委員会審査に入る前に、各議案の論点整理を委員会単位で行っている、定期的な全員懇談会にて情報共有の場を持っている。

---

---

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

先ず大変印象に残ったものはいなべ市議会基本条例の前文「・・・中略、議決責任を強く認識・・・」から自己評価・議会活動の検証評価（シート有り）に始まり、議会及び議員活動を見直し、議会の取り組みを「政策サイクル」として一体化、活動の強化を図られていることです。この点長浜市議会も参考にすることがあるのではないかと感じました。日頃の議員活動、議会活動を見える化することは重要ではないかと思えます。個の議員活動から議会活動へ、市民の声を政策サイクルへと流れを明確にされていたことも、大変参考になり、検討課題議会活性化検討委員会で議論テーマとなると思いました。議会の行動計画を作成することによって、議会が一体的に取り組むべき課題は何か、全議員で問題課題を共有するそして議論するこの流れが明確で、その中に市民の声をいかに政策に反映するか、市が行う事業を（予算審議、予算執行）監視する機能、全議員がその責任を果たしているか、この作業をしっかりと重ねることによって、決算審議につながり、提言であったり、新年度予算へ反映させるという良いサイクルを構築されていた、今後当委員会で検討される、事業評価の導入について大変参考になりました。長浜市議会でも委員会において議論を深めるテーマを決めて政策提言等につなげる活動を始めている。ここに「市民の声」を更に入れ込んでいくことが大事であるとの視察研修で再認識いたしました。議案を審議する環境の充実▶議案勉強会（議員間で）、積極的な討論、定期的な議会終了後の振り返りを全議員でされているなど大変丁寧に進められている印象が残りました。この議案審議の環境整備について、長浜市議会としてどのように取り入れていくか、今回の視察研修の成果を当委員会が中心になって議論を進めていければと思います。